



科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	特色ある教育課程の実践と課題	<p><b>【授業概要・到達目標】</b>  特色ある教育課程の必要性を理解し、その現状を把握するとともに、特色ある教育課程の内容・編成方法・経営について最新の理論及びその実際を学ぶ。</p> <p>① 特色ある教育課程の必要性とその実態を理解する。  ② 特色ある教育課程を編成する方法を理解し、実践できる。  ③ 実習校及び連携協力校の特色ある教育課程を分析でき、さらに充実した特色ある教育課程を編成することができる。</p> <p><b>【授業方法】</b>  特色ある教育課程に関するケーススタディ、実習校及び連携協力校でのフィールドワーク及びワークショップ、シミュレーションを中心とする。  (全15回)</p> <p>1 オリエンテーション  特色ある教育課程の意義と必要性 小野擴男・山崎光洋</p> <p>2 特色ある教育課程と総合的な学習の時間  小野擴男・山崎光洋</p> <p>3 特色ある教育課程と特別活動 小野擴男・山崎光洋</p> <p>4 特色ある教育課程と教科指導 小野擴男・山崎光洋</p> <p>5 特色ある教育課程のフィールドワーク①  小野擴男・山崎光洋</p> <p>6 特色ある教育課程のフィールドワーク②  小野擴男・山崎光洋</p> <p>7 特色ある教育課程のワークショップ①  小野擴男・山崎光洋</p> <p>8 特色ある教育課程のワークショップ②  小野擴男・山崎光洋</p> <p>9 特色ある教育課程のワークショップ③  小野擴男・山崎光洋</p> <p>10 特色ある教育課程のシミュレーション①  小野擴男・山崎光洋</p> <p>11 特色ある教育課程のシミュレーション②  小野擴男・山崎光洋</p> <p>12 特色ある教育課程のシミュレーション③  小野擴男・山崎光洋</p> <p>13 特色ある教育課程のシミュレーション④  小野擴男・山崎光洋</p> <p>14 全国の特色ある教育課程のケーススタディ①  小野擴男</p> <p>15 全国の特色ある教育課程のケーススタディ②  小野擴男</p> <p>(1 小野擴男／15回)  (15 山崎光洋／13回)</p>	<p>研究教員及び実務家教員による共同授業</p> <p>授業の詳細はシラバス参照</p>

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	学習指導の実践と課題	<p><b>【授業概要・到達目標】</b></p> <p>子どもたちの実態に即した学習指導の基本原則を理解するとともに、新たな研究成果を踏まえ、教科横断的な指導法を実践事例に基づき検討する。指導と評価が融合した学習指導のあり方を理解し、具体的なモデル実践やモデル授業を実施するための知識・技能を修得する。</p> <p>① 子どもの学習に対する動機づけを維持するため、また、子どもの授業内容の理解を深めるために、教師がとるべき態度を理解し身につける。</p> <p>② 学習および学習指導の原則を理解するとともに、子どもの実態に即した学習指導の実践力を習得する。</p> <p>③ 評価と指導が融合した教育支援について理解を深め、実際に活用するスキルを身につける。</p> <p><b>【授業方法】</b></p> <p>最新の研究成果を踏まえつつ、学習指導に関するケーススタディ、協力校でのフィールドワークおよびモデル実践を取り入れ、研究と実践が融合した先進的な実践、および受講者の専門をいかした指導実践を題材とした授業を展開する。</p> <p>(全15回)</p> <p>1 オリエンテーション 授業スケジュールの検討 寺澤孝文・黒崎東洋郎</p> <p>2 学習の本質 寺澤孝文</p> <p>3 学習意欲向上を目指す授業の開発 寺澤孝文</p> <p>4 学習意欲向上を直接目指す授業の開発② 寺澤孝文</p> <p>5 学習意欲と学習指導の関係 寺澤孝文</p> <p>6 学習指導の課題に関するワークショップ (授業外編) 寺澤孝文</p> <p>7 学習指導の課題に関するワークショップ (授業編①) 寺澤孝文・黒崎東洋郎</p> <p>8 学習指導の課題に関するワークショップ (授業編②) 寺澤孝文・黒崎東洋郎</p> <p>9 モデル実践の計画 寺澤孝文・黒崎東洋郎</p> <p>10 モデル実践に向けた準備 寺澤孝文・黒崎東洋郎</p> <p>11 モデル実践の実施および経過報告 寺澤孝文・黒崎東洋郎</p> <p>12 モデル実践に関するケースワーク① 寺澤孝文・黒崎東洋郎</p> <p>13 モデル実践に関するケースワーク② 寺澤孝文・黒崎東洋郎</p> <p>14 学習意欲向上を目指す授業の評価と検討 寺澤孝文</p> <p>15 モデル実践およびモデル授業の課題 寺澤孝文・黒崎東洋郎</p> <p>(4 寺澤孝文／15回) (7 黒崎東洋郎／9回)</p>	<p>研究教員及び実務家教員による共同授業</p> <p>授業の詳細はシラバス参照</p>

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	授業の指導計画と教材開発	<p><b>【授業概要・到達目標】</b>  教科指導における授業計画の構造、授業計画の作成方法、教材研究の構造、教材開発の方法等について、教科横断的に検討する。それにより指導計画と教材開発の汎用的なポイントを理解し、それを他の教員と共有できる基本的スキルを獲得する。</p> <p>① 各教科等の目標に基づく単元計画、学習指導案を作成することができる。  ② 各教科等の目標に基づく教材研究、教材開発をすることができる。</p> <p><b>【授業方法】</b>  先進校のケーススタディー、実習校ならびに連携協力校でのフィールドワーク、ワークショップを中心とする他、必要に応じて学校内外の実務専門家の協力を得て広い視点から指導法を討論する。  (全15回)</p> <p>1 オリエンテーション  授業計画の構造 黒崎東洋郎・寺澤孝文</p> <p>2 学習指導における指導内容と教材 黒崎東洋郎</p> <p>3 学習指導における指導計画 黒崎東洋郎・寺澤孝文</p> <p>4 単元計画づくりのワークショップ① 黒崎東洋郎</p> <p>5 単元計画づくりのワークショップ②  黒崎東洋郎・寺澤孝文</p> <p>6 学習指導における指導内容の設定  黒崎東洋郎・寺澤孝文</p> <p>7 学習指導における学習指導法の設定とその最適化  黒崎東洋郎・寺澤孝文</p> <p>8 教材開発の方法 黒崎東洋郎・寺澤孝文</p> <p>9 教材開発のワークショップ① 黒崎東洋郎</p> <p>10 教材開発のワークショップ② 黒崎東洋郎</p> <p>11 学習指導案づくり方法 黒崎東洋郎・寺澤孝文</p> <p>12 学習指導案作成ワークショップ① 黒崎東洋郎</p> <p>13 学習指導案作成ワークショップ② 黒崎東洋郎</p> <p>14 模擬授業 黒崎東洋郎・寺澤孝文</p> <p>15 まとめ 黒崎東洋郎・寺澤孝文</p> <p>(7 黒崎東洋郎／15回)  (4 寺澤孝文／9回)</p>	<p>研究教員及び実務家教員による共同授業</p> <p>授業の詳細はシラバス参照</p>

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	生徒指導と学校カウンセリングの実践と課題	<p><b>【授業概要・到達目標】</b></p> <p>子どもたちの社会的・情緒的発達と今日の生徒指導をめぐる諸課題について理解を深めるとともに、生徒指導の代表的な指導方法（カウンセリング、集団づくり、保護者・関係機関との連携等）について熟知し、学校における組織的な生徒指導の実践力を高める。</p> <p>① 子どもたちの社会的・情緒的な発達状況や子どもの内的葛藤を把握し評価することができる。</p> <p>② 生徒理解・生徒指導の多様な方法を理解しており、子ども集団づくりを中心とした多様な方法を実践することができる。</p> <p>③ カウンセリングマインドを理解するとともに、相談技法を身に付け、教育相談に生かすことができる。</p> <p>④ 同僚との協働や関係諸機関、地域等と連携した生徒指導を組織化することができる。</p> <p><b>【授業方法】</b></p> <p>生徒指導のケーススタディ、実習校ならびに連携協力校でのフィールドワーク、及び、学校カウンセリングのワークショップを中心とする。</p> <p>(全15回)</p> <p>1 オリエンテーション 生徒指導の目的 住野好久・渡邊淳一</p> <p>2 幼・少年期の発達課題と生徒指導 住野好久</p> <p>3 前思春期の発達課題と生徒指導 住野好久</p> <p>4 思春期の発達課題と生徒指導 住野好久</p> <p>5 今日の生徒指導をめぐる諸課題 住野好久</p> <p>6 学校における生徒指導の体制 渡邊淳一</p> <p>7 学校カウンセリングのケーススタディ① 渡邊淳一</p> <p>8 学校カウンセリングのケーススタディ② 渡邊淳一</p> <p>9 生徒指導のフィールドワーク① 住野好久・渡邊淳一</p> <p>10 生徒指導のフィールドワーク② 住野好久・渡邊淳一</p> <p>11 生徒指導のワークショップ① 住野好久・渡邊淳一</p> <p>12 生徒指導のワークショップ② 住野好久・渡邊淳一</p> <p>13 生徒指導のワークショップ③ 住野好久・渡邊淳一</p> <p>14 生徒指導のシミュレーション① 住野好久・渡邊淳一</p> <p>15 生徒指導のシミュレーション② 住野好久・渡邊淳一</p> <p>(5 住野好久／12回)</p> <p>(14 渡邊淳一／11回)</p>	<p>研究教員及び実務家教員による共同授業</p> <p>授業の詳細はシラバス参照</p>

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	特別支援教育の実践と課題	<p><b>【授業概要・到達目標】</b>  通常学校における障害のある子どもの支援、通常学級における軽度発達障害の子どもの支援に関して、主に組織的な校内支援と個別的支援の方法について学習する。</p> <p>① 特別支援教育の理念ふまえた通常学校・学級での特別支援教育の目的・目標を理解する。  ② 軽度発達障害児の特徴及び具体的な支援方法を理解し、実践できる。  ③ 学校内の支援体制の確立及び校外の関係諸機関との連携・協力を推進できる。</p> <p><b>【授業方法】</b>  特別支援教育の実践と課題について総合的に理解するための講義と、ケーススタディ、ワークショップ、フィールドワークを組み合わせる。  (全15回)</p> <p>1 オリエンテーション 佐藤暁・仲矢明孝  2 特別支援教育の現状と新たなシステム 佐藤暁  3 障害のある子どもたち①ー幼・保・小ー 佐藤暁  4 障害のある子どもたち②ー中・高ー 仲矢明孝  5 子どもが安心する環境整備 仲矢明孝  6 子どもが安心する規律づくり 仲矢明孝  7 課題と手だてのある授業 仲矢明孝  8 学級活動の工夫と人間関係づくり 仲矢明孝  9 校内支援体制の実際と課題 仲矢明孝  10 特別支援教育コーディネーターの役割と学外・保護者との連携 仲矢明孝  11 特別支援教育のフィールドワーク① 仲矢明孝  12 特別支援教育のフィールドワーク② 仲矢明孝  13 特別支援教育のワークショップ①  佐藤暁・仲矢明孝  14 特別支援教育のワークショップ②  佐藤暁・仲矢明孝  15 特別支援教育のワークショップ③  佐藤暁・仲矢明孝</p> <p>(8 仲矢明孝／13回)  (20 佐藤 暁／6回)</p>	<p>研究教員及び実務家教員による共同授業</p> <p>授業の詳細はシラバス参照</p>

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	学級・学年・学校経営の 実践と課題	<p><b>【授業概要】</b> この授業では、はじめに、学校に経営的発想がなぜ必要なのかを解説する。そして、学級・学年・学校経営のシステム、理論、分析の視点を説明する。さらに、学級・学年・学校経営の実践事例を検討し、課題を探求する。</p> <p><b>【到達目標】</b> ① 学級・学年・学校経営について総合的に理解する。 ② 学級・学年・学校経営の実践事例を検討し、自らの課題を探求できるようになる。</p> <p><b>【授業方法】</b> 前半(2～7)は講義形式で行う。後半(8～14)は演習形式で行う。演習においては、実践記録や視聴覚教材を使用し、学校現場の実態を理解できるようにする。初回(1)と最終回(15)は教員2名で授業を行う。前半(2～7)は佐藤博志が担当する。後半(8～14)はもう1人の宮野正司が担当する。 (全15回)</p> <p>1 オリエンテーション 佐藤博志・宮野正司 2 学校の現状と課題－学校に経営的発想がなぜ必要か－ 佐藤博志 3 学校組織マネジメントとイノベーション 佐藤博志 4 教育行財政と学級・学年・学校経営 佐藤博志 5 学校におけるPDCAサイクルの理論 佐藤博志 6 学級経営の課題と展望 佐藤博志 7 諸外国における学級・学年・学校経営 佐藤博志 8 学校・学年経営の計画と評価 宮野正司 9 学級経営の計画と評価 宮野正司 10 学校経営の実践事例 宮野正司 11 学年経営の実践事例 宮野正司 12 学級経営の実践事例① 宮野正司 13 学級経営の実践事例② 宮野正司 14 学級経営の実践事例③ 宮野正司 15 まとめ 佐藤博志・宮野正司 (9 宮野正司／9回) (12 佐藤博志／8回)</p>	<p>研究教員及び実務家教員による共同授業</p> <p>授業の詳細はシラバス参照</p>

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	学校保健・学校安全とリスクマネジメント	<p><b>【授業概要】</b>  学校保健・学校安全とリスクマネジメントに関する総合的理解をもとに、具体的な事例研究や実地調査に基づいて事前事後を含めた対応策について追究し、学校保健安全計画立案や安全指導、学校保健・学校安全のリスクマネジメントについて学ぶ。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 学校保健・学校安全の実践と教育現場の課題について総合的に理解する。</li> <li>② 学校保健安全計画立案に必要な知識と技術を身に付け、他の教員や外部の専門家と協働して課題解決する上でリーダー的役割を実践できる。</li> <li>③ 教育現場で遭遇する学校保健・学校安全とリスクマネジメントについて、多角的に分析し、対処法を企画・実践し、その結果を内省できる。</li> </ol> <p><b>【授業方法】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 学校保健の実践と教育現場の課題について総合的に理解するために講義するが、講義内容には必ず実践事例を取り入れ、討議形式の授業を含める。</li> <li>② 学校保健安全計画の立案を行ない、具体的な情報収集の方法や分析能力を身に付ける。</li> <li>③ 学校保健・学校安全の諸課題をリスクマネジメントとして捉える事例研究を行う。  参考書「学校組織マネジメントとスクールリーダー」学文社</li> </ol> <p>(全15回)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーションと学校保健・学校安全の基礎的理解 田嶋八千代・高橋香代</li> <li>2 学校保健・学校安全の今日的課題（ワークショップ） 田嶋八千代</li> <li>3 学校保健安全計画の理解と立案（ケーススタディ） 田嶋八千代</li> <li>4 学校保健安全計画の立案（ワークショップ） 田嶋八千代</li> <li>5 学校保健委員会への参画（組織活動の実際、フィールドワーク） 田嶋八千代</li> <li>6 学校保健のリスクマネジメント <ol style="list-style-type: none"> <li>① 応急手当と救急体制づくりの理解 田嶋八千代</li> <li>② 応急手当・救急体制の事例研究 田嶋八千代・高橋香代</li> <li>③ 裁判事例から学ぶ 田嶋八千代・高橋香代</li> <li>④ 感染症・食中毒の理解 田嶋八千代</li> <li>⑤ 感染症・食中毒の事例研究 田嶋八千代・高橋香代</li> </ol> </li> <li>11 学校安全のリスクマネジメント <ol style="list-style-type: none"> <li>① リスクマネジメントの内容と実態 田嶋八千代</li> <li>② リスクマネジメントの実際 田嶋八千代</li> <li>③ 学校や通学路等における安全管理に関する事例研究（ワークショップ） 田嶋八千代</li> <li>④ 学校安全教育の理解 田嶋八千代</li> <li>⑤ 学校安全教育の事例研究（ワークショップ） 田嶋八千代・高橋香代</li> </ol> </li> </ol> <p>(6 田嶋八千代／15回)  (16 高橋香代／5回)</p>	研究教員及び実務家教員による共同授業  授業の詳細はシラバス参照



科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	学校とコミュニティ	<p><b>【授業概要】</b>  「開かれた学校づくり」に向けての学校・家庭・地域の連携の構築に関して、社会教育・生涯学習の観点から学習する。学校と地域が連携した実践事例を検討し、課題を探究する。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 生涯教育の観点から捉えた学校について理解する。</li> <li>② 学校と地域の連携のあり方について理解する。</li> <li>③ 事例を通して、地域との連携構築能力を養う。</li> </ol> <p><b>【授業方法】</b>  まず、教員による講義を主体にして、学校と地域の連携についての理論的基盤となる社会教育・生涯学習に関する基礎知識を学ぶ。次に、学校と地域の連携に関する具体的な実践事例の分析を演習やワークショップを通して行う。さらに、学校と地域が連携した学習プログラムを受講者各自で作成し、実践的能力を養う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	教育実践研究の方法	<p><b>【授業概要】</b>  授業概要：教育実践研究を行うために必要となる様々な研究方法について、その理論と実際を学ぶ。扱う内容は、地域診断、質問紙調査、事例研究、フィールドワーク、アクションリサーチ、エスノグラフィーなどである。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 学生の教育実践研究上の関心（テーマ）を解決するのに適した研究方法を知る。</li> <li>② その方法を用いた教育実践研究をプランニングできるようになる。</li> <li>③ 教育実践研究の結果を適切な方法によりまとめ、報告することが出来るようになる。</li> </ol> <p><b>【授業方法】</b>  各研究方法の理論については講義を中心とする。研究方法を用いた実践研究の紹介では、教員と学生のディスカッションを中心に展開する。また、質問紙調査の方法については、実際に作業を行う。</p> <p>(全15回)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション 淵上克義・山田剛史</li> <li>2 地域診断・学校分析の理論と方法① 伊藤武彦</li> <li>3 地域診断・学校分析の理論と方法② 伊藤武彦</li> <li>4 質問紙調査の理論と方法① 山田剛史</li> <li>5 質問紙調査の理論と方法② 山田剛史</li> <li>6 質問紙調査の理論と方法③ 山田剛史</li> <li>7 事例研究の実際① 山本力</li> <li>8 事例研究の実際② 山田剛史</li> <li>9 フィールドワークの理論と方法 山本力</li> <li>10 フィールドワークの実際 山本力</li> <li>11 アクションリサーチの方法 淵上克義</li> <li>12 アクションリサーチの実際 淵上克義</li> <li>13 エスノグラフィーの実際① 淵上克義</li> <li>14 エスノグラフィーの実際② 山本力</li> <li>15 まとめ 淵上克義・山田剛史</li> </ol> <p>(3 淵上克義／5回)  (18 山本力／4回)  (21 伊藤武彦／2回)  (24 山田剛史／6回)</p>	研究教員及び実務家教員による共同授業  授業の詳細はシラバス参照

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択科目	授業分析技術とその応用	<p><b>【授業概要・到達目標】</b>  全教科・学校種で共通する授業実践を分析・評価するための技術を事例の分析を通して習得する。</p> <p>① 授業分析の目的・目標、技法、過程、体制等を理解する。</p> <p>② 授業の診断と問題発見ができ、解決の手だてを見出して、実行することができる。</p> <p>③ 授業記録にもとづいて授業分析を行ない、授業改善のための校内研修を組織することができる。</p> <p><b>【授業方法】</b>  授業実践ビデオを活用したケーススタディ、実習校ならびに連携協力校でのフィールドワークを中心とし、事例に関する相互検討を行なう。</p>	
選択科目	学習意欲を高める学習指導	<p><b>【授業概要・到達目標】</b>  学習意欲を高めるための指導法として、子どもの微細な学力の変化をとらえる評価、学習効果の可視化、実体験と授業の融合をとりあげ、それぞれの理論基盤を理解し、いずれかの実践できるようになる。</p> <p>① 子どもの学力の微妙な変化をとらえ、その変化に基づき学習指導を展開していく指導方略を理解し、評価と指導が融合した教育支援を実践できるようになる。</p> <p>② 学習の効果を実感できない内容であっても、学習によって確実にその効果が積み重なっていく事実を、学習・記憶研究の客観データに基づき理解し、様々な教科において、説得力をもって子どもの指導にあたることができるようになる。</p> <p>③ 体験や実感を伴う授業の重要性を理解し、長期的な視点で子どもの過去経験と授業内容をつなぐ指導計画、および授業を展開する方法を身につける。</p> <p><b>【授業方法】</b>  ① 学習効果の持続性に関する最新の研究成果を教育場面へ応用する道筋と基本原理を、具体的な客観データを用いてレクチャーする。</p> <p>② ①の講義内容をまとめ、協力校で、子どもの意欲向上を目的としたモデル授業を各自実施し、子どもの意識変化をもとにその授業を評価する。</p> <p>③ 協力校で行っている評価と指導が融合した教育支援について、フィールドワークおよびケーススタディを行う。</p> <p>④ 学習のプロセスに関して、各自が具体的な場面で普段から感じている疑問や疑念を明らかにし、それらを学術的な知識の理解や討論を通じて解決していく。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択科目	教材開発と授業デザイン	<p><b>【授業概要・到達目標】</b>  教材と授業との関係という視点から授業分析を行い、教材と授業との関係を理解するとともに、教材開発および授業デザインの実際を通し、授業の構成・立案や授業のあり方について考察する。</p> <p>① 教材と授業との関係を理解する。  ② 新しい教材を開発し、指導案を作成することができる。  ③ 複数のスタッフの協働による授業運営を企画・組織し、授業を行うことができる。</p> <p><b>【授業方法】</b>  全ての授業を2名の担当教員が協働で行い、授業分析はビデオなどを活用して行い、教材開発、授業デザインの実際は、プレゼンテーションやシミュレーションを行う。  (全15回)</p> <p>1 オリエンテーション 橋ヶ谷佳正・山崎光洋  2 教材について 橋ヶ谷佳正・山崎光洋  3 教材と授業との関係① 橋ヶ谷佳正・山崎光洋  4 教材と授業との関係② 橋ヶ谷佳正・山崎光洋  5 教材開発①-1 橋ヶ谷佳正・山崎光洋  6 教材開発①-2 橋ヶ谷佳正・山崎光洋  7 プレゼンテーション 橋ヶ谷佳正・山崎光洋  8 教材開発②-1 橋ヶ谷佳正・山崎光洋  9 教材開発②-2 橋ヶ谷佳正・山崎光洋  10 プレゼンテーション 橋ヶ谷佳正・山崎光洋  11 授業デザイン① 橋ヶ谷佳正・山崎光洋  12 授業デザイン② 橋ヶ谷佳正・山崎光洋  13 授業シミュレーション① 橋ヶ谷佳正・山崎光洋  14 授業シミュレーション② 橋ヶ谷佳正・山崎光洋  15 まとめ 橋ヶ谷佳正・山崎光洋</p> <p>(2 橋ヶ谷佳正／15回)  (15 山崎光洋／15回)</p>	研究教員及び実務家教員による共同授業  授業の詳細はシラバス参照

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択科目	授業実践におけるプレゼンテーション力	<p><b>【授業概要・到達目標】</b>  新しい授業形態や教師間の授業研究・支援・情報交換等での活動を想定し、意味・内容と視覚表現との関係を視覚伝達デザインの視点から考え、プレゼンテーションの理論と表現スキル（情報機器を含む）を習得する。</p> <p>① 視覚伝達デザインを理解し、プレゼンテーションに活用できる。  ② デジタル機器・ソフトの基礎的使用ができる。  ③ プレゼンテーションを教育現場や教師間の授業研究などに応用・展開できる。</p> <p><b>【授業方法】</b>  プレゼンテーションの理論とその実際を、デジタル機器を効果的に活用した講義とともに視覚伝達デザインの視点から課題制作を行いプレゼンテーションする。  (全15回)</p> <p>1 オリエンテーション 橋ヶ谷佳正・笠井俊信  2 プレゼンテーションと視覚伝達デザイン①  橋ヶ谷佳正  3 プレゼンテーションと視覚伝達デザイン②  橋ヶ谷佳正  4 プレゼンテーションと視覚伝達デザイン③  橋ヶ谷佳正  5 プレゼンテーションと視覚伝達デザイン④  橋ヶ谷佳正  6 課題制作 橋ヶ谷佳正  7 課題制作のプレゼンテーション 橋ヶ谷佳正  8 ICTについての解説，活用形態，目的，意義  笠井俊信  9 ICT活用の効果と影 笠井俊信  10 授業でのICT活用の実践例と活用効果向上に向けた注意点の検討 笠井俊信  11 ICT活用とプレゼンテーション  橋ヶ谷佳正・笠井俊信  12 デジタル教材とプレゼンテーション  橋ヶ谷佳正  13 課題制作 橋ヶ谷佳正  14 課題制作 橋ヶ谷佳正  15 プレゼンテーション，講評，まとめ  橋ヶ谷佳正・笠井俊信</p> <p>(2 橋ヶ谷佳正／12回)  (23 笠井俊信／6回)</p>	<p>研究教員及び実務家教員による共同授業</p> <p>授業の詳細はシラバス参照</p>

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択科目	特別支援教育における授業づくり	<p><b>【授業概要・到達目標】</b></p> <p>本講義では、特別支援学級や特別支援学校の授業において、子どもと教師が教材を介して意味のあるやりとりを展開できるようにするための具体的な手立てについて学習する。</p> <p>① 「実態把握する力」「目標設定する力」を高め、子どもに必要で適切な授業を構想することができる。</p> <p>② 「教材化する力」「具体化する力」を高め、実際に授業をすることができる。</p> <p><b>【授業方法】</b></p> <p>特別支援教育における授業づくりを総合的に理解するための講義を行った後、ケーススタディ、フィールドワーク、シミュレーションを組み合わせて実施する。 (全15回)</p> <p>1 オリエンテーション 仲矢明孝</p> <p>2 特別支援教育における教師の授業力 大竹喜久</p> <p>3 子どもの実態把握と目標設定① 仲矢明孝</p> <p>4 子どもの実態把握と目標設定② 仲矢明孝</p> <p>5 教材化① 仲矢明孝</p> <p>6 教材化② 仲矢明孝</p> <p>7 発問・説明・指示① 仲矢明孝</p> <p>8 発問・説明・指示② 仲矢明孝</p> <p>9 授業批評① 大竹喜久</p> <p>10 授業批評② 大竹喜久</p> <p>11 授業シミュレーションー教科の授業 仲矢明孝</p> <p>12 授業シミュレーションー「合わせた指導」の授業 仲矢明孝</p> <p>13 授業シミュレーションー自立活動の授業 仲矢明孝</p> <p>14 授業シミュレーションー総合的な学習の時間の授業 仲矢明孝</p> <p>15 まとめ 仲矢明孝</p> <p>(8 仲矢明孝／12回)</p> <p>(22 大竹喜久／3回)</p>	<p>研究教員及び実務家教員による共同授業</p> <p>授業の詳細はシラバス参照</p>

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択科目	子ども分析と学級経営	<p><b>【授業概要・到達目標】</b>  子どもの実態を分析的かつ総合的・全体的に把握し、それにもとづいて、学級の子ども集団をより平和的で民主的・共同的な関係のある自主的・自治的な集団へと発展させていく方法について学ぶ。</p> <p>① 子どもを分析的かつ総合的・全体的に把握するための方法について理解する。  ② 子ども集団に求められる関係性について理解する。  ③ 学級の子ども集団を自主的・自治的な集団へと発展させる方法を身に付ける。</p> <p><b>【授業方法】</b>  子ども分析に関する総合的な理解の上に、ケーススタディ・ワークショップを中心に展開する。  (全15回)</p> <p>1 オリエンテーション 住野好久・中尾道子  2 子どもの発達論的把握①－幼児期から少年期－  住野好久  3 子どもの発達論的把握②－前思春期から青年期－  住野好久  4 子どもの関係論的把握①－幼児期から少年期－  住野好久  5 子どもの関係論的把握②－前思春期から青年期－  住野好久  6 子どもの身体論的把握 中尾道子  7 子どもの生育史的把握 中尾道子  8 子ども集団づくりの目的・目標 住野好久  9 学級における子ども集団づくりの原則① 住野好久  10 学級における子ども集団づくりの原則② 住野好久  11 学級における子ども集団づくりの原則③ 住野好久  12 学級における子ども集団づくりのワークショップ①  中尾道子  13 学級における子ども集団づくりのワークショップ②  中尾道子  14 学級における子ども集団づくりのワークショップ③  中尾道子  15 家族との連携 中尾道子  (5 住野好久／9回)  (10 中尾道子／7回)</p>	<p>研究教員及び実務家教員による共同授業</p> <p>授業の詳細はシラバス参照</p>

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択科目	特別活動とキャリア教育の実際	<p><b>【授業概要・到達目標】</b>  特別活動、主に学校行事、児童会・生徒会活動、クラブ・部活動を実践していく上で、必要な実践力について、事例を通して身につける。さらに、小学校からの系統的なキャリア教育と進路指導の目標・内容・方法等について事例を通して学ぶ。</p> <p>① 特別活動の目標・内容をふまえた指導のあり方について総合的に理解する。  ② 特別活動、特に学校行事、児童会・生徒会活動、クラブ・部活動を指導する上で必要な実践力を身につける。  ③ 小学校からの系統的なキャリア教育について総合的に理解する。  ④ キャリア教育を指導する上で必要な実践力を身につける。</p> <p><b>【授業方法】</b>  特別活動とキャリア教育について総合的に理解するための講義と、ケーススタディ、実習校ならびに連携協力校でのフィールドワーク及びワークショップを中心とする。  (全15回)</p> <p>1 オリエンテーション 山崎光洋  2 学校行事の目標と指導①ー儀式的行事ー 笠原和彦  3 学校行事の目標と指導②ー学芸的行事と体育行事ー 山崎光洋・笠原和彦  4 学校行事の目標と指導③ー遠足・集団宿泊的行事ー 山崎光洋・笠原和彦  5 学校行事の目標と指導④ー奉仕的行事ー 山崎光洋・笠原和彦  6 学校行事のワークショップ 山崎光洋・笠原和彦  7 児童会・生徒会活動と委員会活動の目標と指導 山崎光洋・笠原和彦  8 クラブ活動と部活動の目標と指導 山崎光洋・笠原和彦  9 部活動指導の実際と課題 山崎光洋・笠原和彦  10 クラブ活動・部活動のワークショップ 山崎光洋・笠原和彦  11 キャリア教育と進路指導の目的・目標、内容 古市裕一  12 キャリア発達の系統性 古市裕一  13 小学校におけるキャリア教育カリキュラム (ワークショップ) 中尾道子  14 中学校におけるキャリア教育カリキュラム (ワークショップ) 渡邊淳一  15 高等学校におけるキャリア教育カリキュラム (ワークショップ) 田嶋八千代</p> <p>(6 田嶋八千代／1回)  (10 中尾道子／1回)  (14 渡邊淳一／1回)  (15 山崎光洋／9回)  (19 古市裕一／2回)  (25 笠原和彦／9回)</p>	<p>研究教員及び実務家教員による共同授業</p> <p>授業の詳細はシラバス参照</p>

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択科目	生徒指導と子どもの健康課題	<p><b>【授業概要・到達目標】</b> いじめ、自殺、性の逸脱行動、心身症等、多様化する子どもの発達課題や健康課題について総合的に理解し、事例研究等を通して適切な生徒指導に取り組む実践力を身につける。</p> <p>① いじめ、自殺、心身症等の子どもの健康課題について総合的に理解する。 ② 子どもの発達課題・健康課題に対応した適切な生徒指導の方法を選択して実施できる。 ③ 子どもの発達課題・健康課題をふまえた生徒指導の取り組みについて、他の教員に対して適切な助言ができる。</p> <p><b>【授業方法】</b> 生徒指導と子どもの健康課題について理解するための講義と、ケーススタディ、シミュレーション、ワークショップを組み合わせて実施する。 (全15回)</p> <p>1 オリエンテーション 田嶋八千代・笠原和彦 2 いじめの理解とケーススタディ 住野好久 3 いじめ対応のシミュレーション 住野好久 4 「暴力事件」のケーススタディ① 笠原和彦 5 「暴力事件」のケーススタディ② 笠原和彦 6 自殺の理解と対応 田嶋八千代 7 自殺のケーススタディ 田嶋八千代 8 性の逸脱行動の理解とケーススタディ 田嶋八千代 9 性の逸脱行動のワークショップ 田嶋八千代 10 心身症の理解と対応 田嶋八千代 11 摂食障害のケーススタディ 田嶋八千代 12 リストカットのケーススタディ 田嶋八千代 13 学校組織での連携のケーススタディ 田嶋八千代 14 生徒指導ワークショップ① 住野好久・田嶋八千代・笠原和彦 15 生徒指導ワークショップ② 住野好久・田嶋八千代・笠原和彦</p> <p>(5 住野好久／4回) (6 田嶋八千代／11回) (25 笠原和彦／5回)</p>	<p>研究教員及び実務家教員による共同授業</p> <p>授業の詳細はシラバス参照</p>

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択科目	校外体験活動の実践研究	<p><b>【授業概要】</b>          幼児・児童を対象とした地域における様々な体験活動実践を通して、子どもや保護者への理解の視野を広げると共に、地域と連携した教育を実践する基礎的力を養う。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <p>① 校外における子どもや保護者を総合的に理解する。          ② 家庭・地域と連携した教育実践を担う基礎的力を養う。          ③ 企業体験を通して、社会人としてのマナーを身につける。</p> <p><b>【授業方法】</b>          (株)おもちゃ王国「あそびの学校」及び地域協働学校の学童保育におけるフィールドワークを中心に行う。          (全15回)</p> <p>1 オリエンテーション 担当教員全員          2 あそびの学校について 橋ヶ谷佳正          3 学童保育について 住野好久          4 民間企業におけるサービス業務について 橋ヶ谷佳正          5～10 「あそびの学校」体験活動研究          (フィールドワーク) 橋ヶ谷佳正          11～12 学童保育の体験活動 中尾道子          13～15 校外体験活動に関するワークショップ          橋ヶ谷佳正・住野好久・中尾道子          (2 橋ヶ谷佳正／12回)          (5 住野好久／5回)          (10 中尾道子／5回)</p>	<p>研究教員及び実務家教員による共同授業</p> <p>授業の詳細はシラバス参照</p>

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択科目	教育相談の技術と実践	<p><b>【授業概要・到達目標】</b></p> <p>カウンセリングマインドの理解の上に、教育相談の基礎的技術、教育相談にかかわる専門職との連携、教師の役割などについて、事例の分析とロールプレイを通して学ぶ。</p> <p>① 教育相談における、カウンセリングマインドとカウンセリング技法の基礎を理解し、ロールプレイにより実践する。</p> <p>② 教育相談に直接関わるスクールカウンセラー・教育相談員・担任教師・養護教諭の役割、及び、隣接領域である医療・福祉の専門機関である心療内科・児童相談所などのスタッフの役割について事例に基づき理解する。</p> <p>③ 教師の教育相談における役割の特色を、実際の事例を元に討論し理解する。</p> <p>④ 教師とスクールカウンセラーの信頼関係の形成や具体的な役割分担の意義と実際問題について、事例の検討とロールプレイにより理解を深める。</p> <p><b>【授業方法】</b></p> <p>教育相談技術の基礎を講義した後、ロールプレイ、ケーススタディ、フィールドワークを中心とする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択科目	問題行動にかかわるアセスメントと支援プログラムの開発	<p><b>【授業概要・到達目標】</b>  問題行動のとらえ方、行動アセスメント等の技法、アセスメントに基づく支援プランの作成方法、支援プランの実施方法について学習する。</p> <p>① 支援を必要とする子どもの問題行動をアセスメントすることができる。  ② アセスメントにもとづいた支援プログラムを作成することができる。  ③ 支援計画を実践・評価することができる。</p> <p><b>【授業方法】</b>  実際のアセスメント技法及び支援技法等をシミュレーションによって身に付ける。また、ケース・カンファレンスを行うことによって、チームで問題行動に取り組む手立てについても学ぶ。</p> <p>(全15回)</p> <p>1 オリエンテーション 仲矢明孝  2 問題行動のとらえ方 仲矢明孝  3 個人の内的条件の把握① 柳原正文  4 個人の内的条件の把握② 仲矢明孝  5 行動観察① 柳原正文  6 行動観察② 仲矢明孝  7 アセスメントの結果に基づく支援① 仲矢明孝  8 アセスメントの結果に基づく支援② 仲矢明孝  9 現場におけるアセスメント及び支援プランの検討① 仲矢明孝  10 現場におけるアセスメント及び支援プランの検討② 仲矢明孝  11 支援の実践手続き 仲矢明孝  12 実践発表及び検討① 仲矢明孝  13 実践発表及び検討② 仲矢明孝  14 実践発表及び検討③ 仲矢明孝  15 まとめ 仲矢明孝</p> <p>(8 仲矢明孝／13回)  (17 柳原正文／2回)</p>	<p>研究教員及び実務家教員による共同授業</p> <p>授業の詳細はシラバス参照</p>
選択科目	スクールリーダーと組織開発	<p><b>【授業概要】</b>  本講義は、学校組織の改善を目的とした組織開発に関する諸問題について、組織の構造的側面と成員の社会的行動・心理的側面について、これまでの実証的研究成果をもとにしながら解説する。さらに学校の組織開発を促進するための管理職のリーダーシップの在り方についても解説する。</p> <p><b>【到達目標】</b>  ① 組織としての学校について理解する。  ② 学校の組織開発の方法について理解する。  ③ スクールリーダーのリーダーシップの在り方について、事例を通して具体的に学ぶ。</p> <p><b>【授業方法】</b>  スクールリーダーと組織開発に関する総合的な理解を得るために講義を行った後、事例を取り上げ討論を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択科目	学校経営戦略と評価	<p><b>【授業概要】</b> この授業では、まず、学校の経営戦略と評価について政策的な検討を行い、次に、実践事例の分析を行う。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 学校の経営戦略と評価について理解する。</li> <li>② 事例研究を通して、自校の経営戦略や評価ができる力量を身につける。</li> </ol> <p><b>【授業方法】</b> 最初の2～4回目は、教員が解説した上で、受講生主体のグループディスカッションを行う。5回目以降は、演習形式で行う。すなわち、受講生が報告および問題提起した上で、討議を行う。演習においては、政策文書と文献の検討、および実践事例の分析を行う。</p>	
選択科目	校内研修のマネジメント	<p><b>【授業概要】</b> この授業では、まず、校内研修のマネジメントについて理論的な検討を行い、次に、実践事例の分析を行う。さらに、受講生が校内研修の企画書を作成し、報告する。これらを通して、校内研修に関する専門的な力量を向上する。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 校内研修について総合的に理解する。</li> <li>② 事例研究を通して、校内研修の企画書を作成し、報告できるようにする。</li> </ol> <p><b>【授業方法】</b> 最初の2回は講義形式で行う。3回目以降は、演習形式で行う。すなわち、受講生が報告および問題提起した上で、討議を行う。演習においては、理論的な文献の検討、および実践事例の分析を行う。</p>	
選択科目	教師の職能成長とコーチング	<p><b>【授業概要】</b> 本講義は、教師の職能成長に関わる諸問題について、力量形成、力量形成を促進する対人関係・組織特性、メンタルヘルスの観点から、これまでの実証的研究成果をもとにしながら解説する。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 各年齢段階における教師の職能成長について総合的に理解する。</li> <li>② 教師の職能成長を促す対人関係技法であるコーチングについて理解する。</li> <li>③ スクールリーダーのメンタルヘルスについて事例を通して学ぶ。</li> </ol> <p><b>【授業方法】</b> 教師の職能成長とコーチングに関する講義とともに事例研究を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択科目	教育法規実践研究	<p><b>【授業概要】</b> この授業では、教育法規の論点について解説する。そして、学校で起こり得る様々な課題について、事例や判例を用いて、教育法規の観点から検討する。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 教育法規の基礎について理解する。</li> <li>② 教育法規の事例を通して、実践的力量を身につける。</li> <li>③ 教育問題に対する対処能力を養う。</li> </ol> <p><b>【授業方法】</b> 最初の2～8回目は、教員が解説する。解説の後に、適宜、ディスカッションを行う。9回目以降は、演習形式で行う。受講生が報告および問題提起した上で、討議を行う。演習では、事例研究や判例研究を行う。</p>	
選択科目	学校危機管理の方法論	<p><b>【授業概要】</b> この授業では、学校危機管理の方法論について検討を行う。実践事例も必要に応じて参照する。さらに、受講生が学校現場で学校危機管理に関するマニュアルと行動計画を作成し、報告する。これらのことを通して、学校危機管理に関する専門的な力量を向上する。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 学校の危機管理の理論と実際について学ぶ。</li> <li>② 研究事例を通して、危機管理実践力を身につける。</li> </ol> <p><b>【授業方法】</b> 最初の4回は講義形式で行う。5回目以降は、演習形式で行う。すなわち、受講生が報告および問題提起した上で、討議を行う。演習においては、理論的な文献の検討、および実践事例の分析を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択科目	教育実践研究Ⅰ（課題発見）	<p>《新卒院生必修》</p> <p><b>【授業概要】</b></p> <p>地域協働学校の課題発見実習で、教育課題や教員の自己課題をアクションリサーチしながら教員としての自己分析に取り組む。さらに模擬授業等を通して、教員と院生が共同分析を行い、院生それぞれの自己課題を明確化することで課題発見を行う。その上で、課題解決実習の目標を設定するとともに、PDCAサイクルで実践から評価していくプロセスを整理し言語化し、1年後期の教育実践研究Ⅱ（課題解決）につなげる。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <p>① 教員としての苦手分野、得意分野を客観的に自己分析できる能力を身につける。</p> <p>② 自らの教育実践に対する他者からの批評を活用し昇華する姿勢を身につける。</p> <p>③ 自己課題の解決のプロセスを自分で組み立てる能力を育てる。</p> <p><b>【授業方法】</b></p> <p>複数の専任教員による演習形式での指導、模擬授業等での共同分析、個別指導により構成する。自己課題分析に当たっては、指導教員や他の院生からの批評と議論を活かして、自己課題を明確化する。</p> <p>（全15回）</p> <p>1 オリエンテーション 小野擴男・橋ヶ谷佳正・住野好久 仲矢明孝・山崎光洋・笠原和彦</p> <p>2～5 教師としての自己分析に関する演習 小野擴男・橋ヶ谷佳正・住野好久 仲矢明孝・山崎光洋・笠原和彦</p> <p>6～9 模擬授業等による共同分析 小野擴男・橋ヶ谷佳正・住野好久 仲矢明孝・山崎光洋・笠原和彦</p> <p>10～14 自己課題解決のための計画の立案と評価法に関する演習 小野擴男・橋ヶ谷佳正・住野好久 仲矢明孝・山崎光洋・笠原和彦</p> <p>15 課題発見レポートの提出と指導 指導教員 （1 小野擴男／14回） （2 橋ヶ谷佳正／14回） （5 住野好久／14回） （8 仲矢明孝／14回） （15 山崎光洋／14回） （25 笠原和彦／14回）</p>	<p>研究教員及び実務家教員による共同授業</p> <p>授業の詳細はシラバス参照</p>

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択科目	教育実践研究Ⅱ(課題解決)	<p>《新卒院生必修》</p> <p><b>【授業概要】</b>            教育実践研究Ⅰ(課題発見)の成果を踏まえた課題解決実習における院生それぞれの自己課題解決の実践の評価をP D C Aサイクルで振り返り、教職員と連携して学校における教育課題解決につなぐ意識を育てる。続いて、地域協働学校以外の学校でのフィールドワークを通して新たな、自己課題の克服訓練を行う。その後2年次の教育実践研究Ⅲ(課題探究)における実践計画の準備を行う。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <p>① 自己課題解決のプロセスを自分で組み立てることができる。            ② 自己課題克服の訓練を、PDCAサイクルで振り返り評価できる。            ③ 自己課題解決を学校の教育課題解決につなぐ意識を育てる。</p> <p><b>【授業方法】</b>            複数の専任教員による演習形式での指導に続き、地域協働学校以外の学校でのフィールドワークを行う。課題解決の改善計画の作成に当たっては、連携協力校の教職員の指導を受けるとともに指導教員や他の院生からの批評と議論を活かす。            (全15回)</p> <p>1 オリエンテーション            小野擴男・橋ヶ谷佳正・住野好久            仲矢明孝・山崎光洋・笠原和彦</p> <p>2～6 課題解決実習の評価と自己課題克服訓練計画            小野擴男・橋ヶ谷佳正・住野好久            仲矢明孝・山崎光洋・笠原和彦</p> <p>7～9 課題解決のためのフィールドワーク            指導教員</p> <p>10～14 課題探求の方向性と評価            小野擴男・橋ヶ谷佳正・住野好久            仲矢明孝・山崎光洋・笠原和彦</p> <p>15 自己課題解決のポートフォリオの提出と指導            指導教員</p> <p>(1 小野擴男／11回)            (2 橋ヶ谷佳正／11回)            (5 住野好久／11回)            (8 仲矢明孝／11回)            (15 山崎光洋／11回)            (25 笠原和彦／11回)</p>	<p>研究教員及び実務家教員による共同授業</p> <p>授業の詳細はシラバス参照</p>

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択科目	教育実践研究Ⅲ(課題探究)	<p>《新卒院生必修》</p> <p><b>【授業概要】</b></p> <p>1年次の教育実践研究Ⅰ(課題発見)及び教育実践研究Ⅱ(課題の成果)を踏まえて、連携協力校または赴任校で教育実践を行う。本講義では、専任教員の中から選択した指導教員により週一回、課題探究実践の進捗状況について、大学及び学校現場で定期指導を受ける。また前期には検討会と中間報告会を、後期には検討会と最終報告会を開催し、指導教員と履修院生の全員参加による議論と成果発表会を開催する。最終的に課題探究のプロセスをケース記述し教育実践研究報告書を作成する。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <p>① 教育実践研究Ⅱ(課題解決)で設定した課題解決の目標と改善計画に基づいて、実践研究を行い、その成果を評価・検証し、他者が活用できるようにそれぞれの実践研究活動全体を言語化し一般化する。</p> <p>② 特に、自己課題のみにとらわれないように、学校現場の課題をチームで解決するプロセスの一貫として取り組む力を育成する。</p> <p><b>【授業方法】</b></p> <p>教育実践研究を演習形式で指導、学校現場での実地指導、検討会での集団指導で構成する。大学教員の意見であっても、あくまで参考意見として捉え、すべて鵜呑みにして課題解決をせず、学校現場の教職員や地域や行政、保護者、専門機関など多くの意見を統合して最良な方法を選択する訓練をする。</p> <p>(全30回)</p> <p>1 オリエンテーション 担当教員全員  2～6 定期指導(週一回) 指導教員  7～8 検討会(前期一回) 担当教員全員  9～11 定期指導(週一回) 指導教員  12～15 中間報告会(前期一回) 担当教員全員  16～21 定期指導(週一回) 指導教員  22～23 中間報告会(後期一回) 担当教員全員  24～28 定期指導(週一回) 指導教員  29～30 最終報告会 指導教員  (専任教員及び学生指導教員担当)</p>	<p>研究教員及び実務家教員による共同授業</p> <p>授業の詳細はシラバス参照</p>

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択科目	教育実践研究Ⅰ（課題分析）	<p>《現職院生必修》</p> <p><b>【授業概要】</b></p> <p>現職院生がこれまでの経験から取組みたいと考える課題とその提案理由について、共通科目や連携協力校におけるフィールドワークを通して、多角的に分析を行う。教員や他の院生からの指摘を得ながら、課題の本質を見極める作業を行う。加えて自己課題の分析もを行い、1年後期の教育実践研究Ⅱ（課題提案）につなげる。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <p>① 多様な人材との連携や、文献などの情報源を活用して、現任校での課題を構造的に把握し明確化するとともに、自己課題を分析する。</p> <p>② 課題分析のプロセスを整理し、言語化する。</p> <p><b>【授業方法】</b></p> <p>複数の専任教員による演習形式での指導に続き、現任校・連携協力校での実践研究、個別指導により構成する。課題分析に当たっては、指導教員や他の院生からの批評と議論を活かして、現任校での教育課題と自己課題を明確化する。</p> <p>（全15回）</p> <p>1 オリエンテーション            浏上克義・佐藤博志・熊谷愼之輔・高瀬淳・宮野正司・渡邊淳一</p> <p>2～6 課題分析の方向性と自己課題に関する演習            浏上克義・佐藤博志・熊谷愼之輔・高瀬淳・宮野正司・渡邊淳一</p> <p>7～9 課題分析のためのフィールドワーク            指導教員</p> <p>10～14 課題分析と解決の方向性に関する演習            浏上克義・佐藤博志・熊谷愼之輔・高瀬淳・宮野正司・渡邊淳一</p> <p>15 課題分析レポートの提出と指導 指導教員</p> <p>（3 浏上克義／11回）            （9 宮野正司／11回）            （11 高瀬 淳／11回）            （12 佐藤博志／11回）            （13 熊谷愼之輔／11回）            （14 渡邊淳一／11回）</p>	<p>研究教員及び実務家教員による共同授業</p> <p>授業の詳細はシラバス参照</p>

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択科目	教育実践研究Ⅱ(課題提案)	<p>《現職院生必修》</p> <p><b>【授業概要】</b> 教育実践研究Ⅰ(課題分析)で得られた課題分析の成果から課題解決の方向性を明確化し、現任校にいくつかの改善計画を提案し、現任校の教職員と協働して次年度の年度計画に組み入れるように目標と改善計画を具体的に作成する。2年次の教育実践研究Ⅲ(課題検証)における評価の準備を行う。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <p>① 構造的に把握した現任校の教育課題の改善計画とその目標を明確化し、年度計画に具体的な提案を行う。 ② 立案した改善計画の評価基準を作成する。</p> <p><b>【授業方法】</b> 複数の専任教員による演習形式での指導に続き、現任校での実践研究を行う。課題解決の改善計画の作成に当たっては、現任校の教職員と協働し指導教員や他の院生からの批評と議論を活かす。 (全15回)</p> <p>1 オリエンテーション     瀧上克義・佐藤博志・熊谷愼之輔・宮野正司・渡邊淳一・高瀬淳</p> <p>2～6 課題提案の方向性に関する演習     瀧上克義・佐藤博志・熊谷愼之輔・宮野正司・渡邊淳一・高瀬淳</p> <p>7～9 課題提案のためのフィールドワーク 指導教員</p> <p>10～14 改善計画と課題解決の評価に関する演習     瀧上克義・佐藤博志・熊谷愼之輔・宮野正司・渡邊淳一・高瀬淳</p> <p>15 改善計画と年度計画のレポートの提出と指導     指導教員</p> <p>(3 瀧上克義／11回) (9 宮野正司／11回) (11 高瀬 淳／11回) (12 佐藤博志／11回) (13 熊谷愼之輔／11回) (14 渡邊淳一／11回)</p>	<p>研究教員及び実務家教員による共同授業</p> <p>授業の詳細はシラバス参照</p>

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択科目	教育実践研究Ⅲ(課題検証)	<p>《現職院生必修》</p> <p><b>【授業概要】</b></p> <p>1年次の教育実践研究Ⅰ(課題分析)および教育実践研究Ⅱ(課題提案)で検討した目標と改善計画に基づいて、現任校の課題を解決・実践する。本講義では、専任教員の中から選択した指導教員により週一回、課題解決実践の進捗状況について、大学及び現任校で定期指導を受ける。また前期には検討会と中間報告会を、後期には検討会と最終報告会を開催し、指導教員と履修院生の全員参加による議論と成果発表会を開催する。最終的に課題解決のプロセスをケース記述し教育実践研究報告書を作成する。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <p>① 教育実践研究Ⅱ(課題提案)で設定した課題検証の目標と改善計画に基づいて、現任校で実践研究を行い、その成果を評価・検証し、他校でも活用できるように、自分の実践研究活動全体を言語化し一般化する。</p> <p>② 特に、個人で解決するのではなく、多種の人材や情報源を利用してチームで解決することを目標とし、チームで課題解決する手法と能力を養う。</p> <p><b>【授業方法】</b></p> <p>教育実践研究を演習形式で指導，現任校での実地指導，検討会での集団指導で構成する。大学教員の意見であっても，あくまで参考意見として捉え，すべて鵜呑みにして課題解決をせず，現任校の教職員や地域や行政，保護者，専門機関など多くの意見を統合して最良な方法を選択する訓練をする。</p> <p>(全30回)</p> <p>1 オリエンテーション</p> <p style="padding-left: 40px;">瀧上克義・佐藤博志・熊谷愼之輔・渡邊淳一・田嶋八千代</p> <p>2～6 定期指導(週1回) 指導教員</p> <p>7～8 検討会(前期1回) 担当教員全員</p> <p>9～11 定期指導(週1回) 指導教員</p> <p>12～15 中間報告会(前期1回) 担当教員全員</p> <p>16～21 定期指導(週1回) 指導教員</p> <p>22～23 中間報告会(後期1回) 担当教員全員</p> <p>24～28 定期指導(週1回) 指導教員</p> <p>29～30 最終報告会 指導教員</p> <p>(専任教員及び学生指導教員担当)</p>	<p>研究教員及び実務家教員による共同授業</p> <p>授業の詳細はシラバス参照</p>

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学校における実習科目	課題発見実習	<p><b>【授業概要・到達目標】</b>  授業の概要：地域協働学校（岡山市立石井中学校区の小・中学校）で日常的に授業、部活動、生徒指導等の教育活動を全般にわたって観察・参加実習を行う。  到達目標： 授業、生徒指導、学級指導等に係る理論と実践のズレを見付け、それを解決すべき自己教育課題を発見する。</p> <p><b>【授業方法】</b></p> <p>① 岡山市の地域協働学校（石井中学校区の小・中学校）を拠点校にして、課題発見のための日常的な「観察・参加」の教育実習（1週1日、15週、延べ120時間）を実施する。</p> <p>② 期間 （4月～7月）</p> <p>③ 実施方法  新卒院生が、これからの学校が保護者や地域も含め、授業、生徒指導、学級経営、開かれた学校づくり等に関する多面的な教育課題を発見するため、地域協働学校で日常的に観察・参加実習を行う。実習の内容は、次の事項を含むものとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 教育課程の編成・実施に関する領域</li> <li>2 教科等の実践的な指導方法に関する領域</li> <li>3 生徒指導、教育相談に関する領域</li> <li>4 学級経営、学校経営に関する領域</li> <li>5 学校教育と教育のあり方に関する領域</li> </ol> <p>1 学部オリエンテーション  黒崎東洋郎・橋ヶ谷佳正・山崎光洋・笠原和彦・仲矢明孝・渡邊淳一</p> <p>2 地域協働学校別事前指導  黒崎東洋郎・橋ヶ谷佳正・山崎光洋・笠原和彦・仲矢明孝・渡邊淳一</p> <p>3 地域協働学校観察・参加実習  黒崎東洋郎・橋ヶ谷佳正・山崎光洋・笠原和彦・仲矢明孝・渡邊淳一</p> <p>4 中間報告 黒崎東洋郎・橋ヶ谷佳正・山崎光洋・笠原和彦・仲矢明孝・渡邊淳一</p> <p>5 引き続き、地域協働学校を観察・参加  黒崎東洋郎・橋ヶ谷佳正・山崎光洋・笠原和彦・仲矢明孝・渡邊淳一</p> <p>6 課題発見実習の成果と発表  黒崎東洋郎・橋ヶ谷佳正・山崎光洋・笠原和彦・仲矢明孝・渡邊淳一</p> <p>(2 橋ヶ谷佳正)  (7 黒崎東洋郎)  (8 仲矢明孝)  (14 渡邊淳一)  (15 山崎光洋)  (25 笠原和彦)</p>	<p>研究教員及び実務家教員による共同授業</p> <p>授業の詳細はシラバス参照</p>

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学校における実習科目	課題解決実習	<p><b>【授業概要・到達目標】</b></p> <p>授業の概要：地域協働学校（岡山市立石井中学校区の小・中学校）で日常的に授業，部活動，生徒指導等の教育活動の中で，自分の発見した自己課題について，課題解決実習を行う。</p> <p>到達目標：自分の発見した自己課題に関する解決法や評価，実践的な課題解決力を身に付けることができる。</p> <p><b>【授業方法】</b></p> <p>① 岡山市内の地域協働学校（小・中学校）を拠点校にして，5週間の集中実習を通して（5週，延べ200時間）を実施する。</p> <p>② 期間 8月下旬～9月</p> <p>③ 実施方法</p> <p>課題発見実習と教育実践研究Ⅰ（課題発見）での成果を踏まえて明確化した自己課題を，地域協働学校での5週間の集中実習を通して，課題解決する。課題解決実習の内容は，次の事項を含むものとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 教育課程の編成・実施に関する領域</li> <li>2 教科等の実践的な指導方法に関する領域</li> <li>3 生徒指導、教育相談に関する領域</li> <li>4 学級経営、学校経営に関する領域</li> <li>5 学校教育と教育のあり方に関する領域</li> </ol> <p>1 オリエンテーション 黒崎東洋郎・橋ヶ谷佳正・山崎光洋・笠原和彦・仲矢明孝・渡邊淳一</p> <p>2 課題の妥当性と課題解決方法の確認 黒崎東洋郎・橋ヶ谷佳正・山崎光洋・笠原和彦・仲矢明孝・渡邊淳一</p> <p>3 課題解決実習Ⅰ 黒崎東洋郎・橋ヶ谷佳正・山崎光洋・笠原和彦・仲矢明孝・渡邊淳一</p> <p>4 課題解決実習Ⅱ 黒崎東洋郎・橋ヶ谷佳正・山崎光洋・笠原和彦・仲矢明孝・渡邊淳一</p> <p>5 事後指導 黒崎東洋郎・橋ヶ谷佳正・山崎光洋・笠原和彦・仲矢明孝・渡邊淳一</p> <p>(2 橋ヶ谷佳正) (7 黒崎東洋郎) (8 仲矢明孝) (14 渡邊淳一) (15 山崎光洋) (25 笠原和彦)</p>	<p>研究教員及び実務家教員による共同授業</p> <p>授業の詳細はシラバス参照</p>

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学校における実習科目	インターンシップ実習	<p><b>【授業概要・到達目標】</b></p> <p>授業の概要：岡山中央小・中学校等での「部活指導」及び「特別支援学級での自立活動支援」を通して、学校内の多面的な教育活動で実習する。</p> <p>到達目標：学部段階で得た学校教育活動の基礎的な理解の上に立って、多面的な子ども理解を図るとともに、部活動等の指導ができる。</p> <p><b>【授業方法】</b></p> <p>① 岡山市立岡山中央小・中学校等での「部活指導」「特別支援活動」の体験実習を行う。</p> <p>② 期間 4月～2月(通年)</p> <p>③ 実施方法</p> <p>保護者、地域から幅広い支持を得ると共に、社会的に貢献できる教員としての資質能力を育成する部活指導、特別支援活動の多面的な体験実習を半期交代で行う。</p> <p>A組は前期 部活動指導実習、後期 特別支援実習であり、B組は前期・後期を交代する。</p> <p>1 部活指導実習(4月～2月、1週間に1回、1回3時間×15回)</p> <p>2 特別支援実習(4月～7月、1週間に1回、1回3時間×15回)</p> <p>1 オリエンテーション 黒崎東洋郎・橋ヶ谷佳正・山崎光洋・笠原和彦・仲矢明孝・渡邊淳一</p> <p>2 部活実習 黒崎東洋郎・橋ヶ谷佳正・山崎光洋・笠原和彦・仲矢明孝・渡邊淳一</p> <p>3 特別支援実習 黒崎東洋郎・橋ヶ谷佳正・山崎光洋・笠原和彦・仲矢明孝・渡邊淳一</p> <p>4 事後指導 黒崎東洋郎・橋ヶ谷佳正・山崎光洋・笠原和彦・仲矢明孝・渡邊淳一</p> <p>(2 橋ヶ谷佳正) (7 黒崎東洋郎) (8 仲矢明孝) (14 渡邊淳一) (15 山崎光洋) (25 笠原和彦)</p>	<p>研究教員及び実務家教員による共同授業</p> <p>授業の詳細はシラバス参照</p>